台灣高中第二外語教育政策對高中日語教學之影響

一以高中日語教師及高中選修日語的學生調查為例一

王福順

修平科技大學應用日語系

盧錦姬

靜宜大學日本語文學系

摘要

本研究計畫旨在針對高中第二外語課程中的日語教學，進行全國性之調查，藉以瞭解在近年來各項高中第二外語教育政策影響下，高中日語教學進行的現況及教師的看法。

研究結果如下：

- (1) 教師養成：整體而言，教師對於師資養成政策皆持正面的態度，但認為為了提升教學品質，高中應合聘專任的第二外語教師。
- (2) 日語課程：教師希望『初級日語課程』開設在高中一年級，『進階日語課程』開設在二年級，因如果開設在三年級，學生會因須準備大學聯考而影響選修意願。而班級人數，多數教師認為 30 人以下較為適當。
- (3) 多數教師認為高中日語屬於選修課程，且又不是大學聯考的考科，學生比較不用心學習。希望能將日語列入大學聯考的考科之一，或是大學在甄選入學考試時，能將高中日語成績列入考量。但此結果與學生的調查結果有顯著的差異。
- (4) 資源方面：教師皆認為教育部對高中日語的補助減少且資源被縮減，導致影響高中日語教學的成效。

關鍵字：高中第二外語、外語教育政策、日語教學、日語課程

台湾の高校第二外国語教育政策が高校日本語教学に及ぼす影響—高校の日本語教師と第二外国語として日本語を受講する高校生のアンケート調査より—

王福順

修平科技大学応用日本語学科

盧錦姬

靜宜大学日本語文学科

要旨

本研究は台湾の高校第二外国語課程中の日本語教育に対して全国的に徹底した調査を行うことにより近年の台湾の高校第二外国語教育政策の影響下での高校日本語教育の現況を理解することを目的とする。研究の結果は以下の通りである。

- (1) 教師育成の面で：全体的にあって、教師の多数は教師養成政策に、前向きな態度であったが、教育品質をアップさせるため高校は専任の第二外国語教師を招くべきだとした。
- (2) カリキュラムの面で：教師の多数は「初級日本語課程」を高校1年生時に、『進階日語課程』を二年生で開設したいとし、またクラスの人数を30人以下にしたいと希望している。
- (3) 学習評価の面で：教師の多数は高校日本語は選択科目になっていて、大学入学試験の試験科目ではないので、学生はあまり真剣に学習することはないと教師の多数は考えている。また教師の多数は「大学入学試験に日本語科目を増設するべきだ。」「日本語関連の大学学部へ推薦または申請入学するとき、高校の第二外国語日本語の成績を考慮に入れるべきだ。」と考えている。これらの点に関して、教師と学習者の間にあ程度のギャップや差異が存在しているということが判明した。

- (4) リソースの面で：教師の多数は教育部の高校日本語への補助が少なくなり、リソースが削減されたことで高校日本語教育に影響がでているとした。

キーワード：高校第二外国語、外国語教育政策、日本語教学、日本語課程